

畳で成績アップ!

フローリングより「計算できた」

フローリングの洋室より、畳の和室での学習の方が成績アップ!? 森田洋・北九州市立大助教(生物資源工学) 写真が中学生を対象に行った実験で、こんな結果が出た。森田助教は「畳の原料となるイ草」にはリラックス効果のある成分が含まれており、生徒の集中力が高まったの



イ草 畳表の原料。全国の約9割が熊本県八代地方で栽培されている。中国産の輸入や建築様式の洋風化の影響で、生産農家は減少を続け、全国の作付面積は1970年は約9600㌦だったが、2005年は約1760㌦まで落ち込んだ。平安時代の植物辞典「本草和名」には、薬草として記載されている。

北九州市立大助教 イ草のリラックス効果実証

森田助教は約8年にわたり、イ草を研究。▽芳香成分が含まれており、森林浴効果に近いリラックス効果がある▽保温性があり、部屋の湿度を一定に保つ▽有毒物質を吸着し、抗菌、抗アレルギー作用がある。などの効果をつかんだ。さらに、「畳の部屋は落ち着く」という日本人ならだれでも知っている経験則を、実証的に示したい」と、学習効果の実験を行った。昨年2月、日本一のイ草の産地・熊本県八代市で、学習塾などの協力を得て実施。同程度の学力を持つ中学1、2年生19人を、床に畳、壁に紙を敷き詰めた和室のグループと、フローリングの会議室のグループに分け、各部屋で1時間過ごした後、そのまま1時間かけて計算問題に取り組みもらった。

231問の解答数と正答率などを調べた結果、和室グループは、平均136.5問を解答。会議室グループの128.5問より8問多かった。正解率は和室が78.5%、会議室は76.6%だった。

実験後のアンケートでは、約9割が「和室の方が落ち着いた」、約7割が「和室の方が、よく問題が解けた」と回答。自由記述欄には「畳の方が集中できた」「畳の方が疲れなかった」。

「明るい未来を返して」

地下鉄サリン 被害者のめいが手記

12人の死者、50000人を超える重軽傷者を出した地下鉄サリン事件から丸12年となる3月20日を前に、被害者の会や被害対策弁護団などが17日、東京都内で「地下鉄サリン事件から12年の集い」を開いた。犠牲者にとっては十三回忌となる。集いでは、様々な人たちの「あの日」への思いを

手記にしてまとめた冊子も公表され、今なお後遺症に苦しむ叔母を世話する中学

生による手記の朗読も行われた。「これからも叔母や父は大きな傷を負いながら生きていきます。(中略)明るい未来を返してください」

地下鉄丸ノ内線の車内で被害に遭い、今も寝たきり状態の浅川幸子さん(43)のめいで、中学生の浅川ゆうかさんは、集いに参加した約1300人を前に、手記を朗読した。

事件当時はまだ7歳。事